

天文学の研究成果報告

大宮氏 鈴木氏 市民ら対象に講演会

石垣市で13日から始まっている東アジア若手天文学者会議(EAYAM)2017主催の公開講演会「天文学最前線」が18日午後、県立石垣青少年の家で行われ、国立天文台太陽系外惑星探査プロジェクト室特任研究員の大宮正士氏と、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構特任助教の鈴木尚孝氏の2人が、それぞれ最先端の天文研究の成果を報告し、市民約30人が聴講した。

大宮氏は「太陽系外惑星発見物語」の題で、地球によく似た惑星を探査して観測を続ける研究を紹介。太陽のような恒星の周りを公転し、恒星との距離や半径、質量などと条件をしぼって観測精度を上げていくが「まだ見つかっていない」とした。

鈴木氏は「暗黒エネルギー

ギー発見物語」で、宇宙全体に満ちた「暗黒エネルギー」の70%を占め、宇宙を加速膨張させ、その存在が謎

来計画を報告。天文学に興味がある人や天体観測好きの市民らが、天文学の最新成果に耳を傾けた。

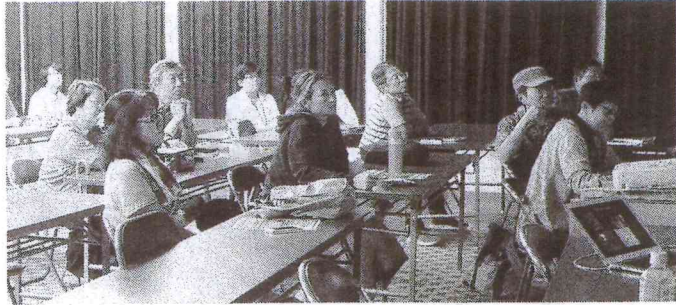
鈴木氏は「これからは技術開発が進んで観測精度が上がる。長生きすれば近い将来きっと新しい発見に出会えるはず」と笑顔で語った。



大宮正士氏



鈴木尚孝氏



東アジア若手天文学者会議の公開講座で、最新の天文学の成果に耳を傾ける参加者118日午後、県立石垣青少年の家